

胸部 X 線写真から 骨密度を推測する AI 医療機器による 骨粗鬆症診療の夜明け

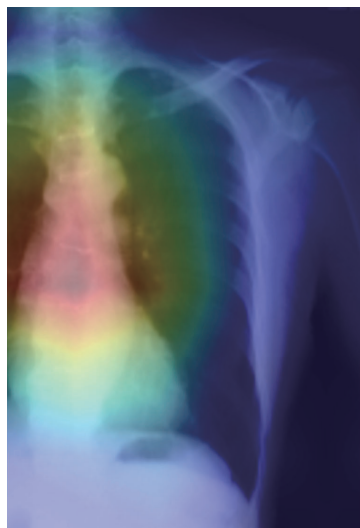
登壇者プロフィール



氏名: 佐藤 洋一

役職: 代表取締役医師

2014年 三重大学医学部卒、整形外科・リハビリ専門医。名古屋大学関連病院勤務、2019年からAI研究開始。2020年 iSurgery株式会社創業、代表取締役。AI関連の学会賞4回受賞。名古屋大学大学院医学系研究科 客員研究員を兼務。



骨粗鬆症の治療介入率は約20%に留まり、多くの骨折患者や要介護患者が発生し、医療費介護費は約1兆円を超える。治療介入率を向上させるため、胸部X線写真を活用した骨粗鬆症スクリーニング検査を考案した。全国50施設から収集した60,000件の医療データから開発したAIアルゴリズムは、従来の検査機器と同等以上の精度を獲得した。基礎技術をまずは「胸部X線写真から骨の状態を解析するAI医療機器」として薬事



胸部X線写真から 骨粗鬆症を検査する AI医療機器

認可を得て、2023年4月、世界で初めて販売開始となった。保険診療、一般健診、企業健診、住民健診で活用され、上市後半年間の累積検査数は25,000件を突破した。企業健診や住民健診における事業検証では、効率的な患者発見と医療費削減効果が示された。この知見を高齢化社会の課題に直面する海外諸国にも届け、世界全体の健康に寄与したい。

団体概要

「骨粗鬆症患者の早期発見・早期治療により骨折や要介護状態を減らし、健康寿命を伸ばす。」をビジョンに掲げ、胸部X線写真から骨粗鬆症を検査するAI医療機器を開発しています。どこでも、誰でも、手軽に骨粗鬆症の評価を受けられる未来を目指して。私たちは、骨粗鬆症診療のデジタルトランスフォーメーション(DX)により、高齢化社会が抱える長年の課題にブレイクスルーを起こすことを目指します。